

## 女は化けるなあ

しばらく、幹夫のマンガを手にして見る。

「エイトマン」とは、並にない体格、  
がっちりした美男子のスーパーロボット。

「こんなのが実際に今存在したら、  
いかに、この世の中がなるだろう。

これが普通の人間として、  
一人、ただ、ずば抜けて、

この世に生きていたら、  
こいつ、女にちやほやされるやろなあ。」  
と、一種、おどけた調子で読む。

「しかし金属の体はいややなあ。」

科学空想マンガや映画が、いまだに、  
僕の頭から離れないのは、大したものだと、  
自分で自分を見つめて、あきれる。

国語の漢字の意味をまとめていると、  
てるちゃんが来て、お母ちゃんに化粧手伝ってもらった。

それに見とれながら、感心して、僕が、  
「女は化けるなあ。」と言うと、笑った。

雑談しているうちに、五時すぎ。

しばらく、ぼんやりして、めしを食い、  
すぐ、部屋に戻り、寝てしまう。

結局、社会は、明日、朝方にまかせる事にたった。